

平成30年度 金沢ベーシックカリキュラム実践推進事業 報告書

学校名	研究課題	研究手法
金沢市立泉小学校	教科一般	独自カリキュラムの作成

1 研究の重点と具体的な取組

- 本校の研究の3つの重点を1単位時間（45分間）の授業に反映させ、泉小学習スタイルを構築・共通実践する。これをもとに授業者個々の工夫を付け加えながら泉小学習スタイルを向上・発展させていく。
- 泉小学習スタイルに基づき、以下の3点を研究の重点とし授業研究を通じた取り組みを行う。研究授業においては、助言者を要請し、指導・講評をいただき、更なる研究の深化を図る。

重点1 つけたい資質・能力を育む単元構成の工夫

- 学びを自分事にする工夫
- 地域の「人・もの・こと」とつなぐ工夫
- 他教科等との関連の明確化



重点1 (2) 地域の「人・もの・こと」とつなぐ工夫

### 泉小の授業デザイン 泉小学習スタイル

- 1. 学習問題をつかみ、見通しをもつ**  
前時までの活動を振り返る  
本時の学習問題を確認する  
本時の学習の見通しを立てる
- 2. 学び合う**  
個人で活動する  
グループで活動する  
全体で活動する
- 3. まとめ・振り返る**  
本時の活動のまとめをする  
次時の学習問題や見通しを立てる  
本時の活動を振り返る

単元構想

他教科等との関連

重点1 (3) 他教科等との関連の明確化

重点2 主体的・対話的で深い学びを培う学習指導の工夫

- 学習形態や場の工夫
- 思考を可視化・操作化する工夫
- 思考を深める手立ての工夫



重点2 (1) 学習形態や場の工夫  
ペア・グループ活動



重点2 (2) 思考を可視化・操作化する工夫  
付箋の使用



重点3 (1) 自己との対話による「振り返り」の工夫  
活動を振り返るワークシート

重点3 次の学びにつながる評価の工夫

- 自己との対話による「振り返り」の工夫
- 変容を自覚する工夫

・授業研究を進めていく中で泉小プランの検討を重ね、よりよいカリキュラムになるよ

うにする。

## 2 取組の検証

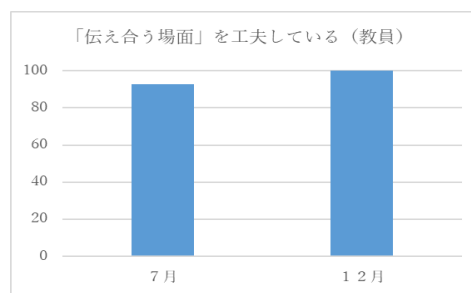
### (1) 泉小学習スタイル（3つの段階）

#### ①「泉小学習スタイル」を意識した授業改善

本校では、昨年度より「金沢型学習スタイル」を基に「泉小学習スタイル」を構築し、45分間を3つの場面に分け、重点を意識して授業をしている。学校評価アンケートにおいて、教員用質問項目「教師は泉小学習スタイルを意識した授業改善に取り組んでいる」について、7月、12月ともに100%の職員が意識して取り組んでいると回答した。

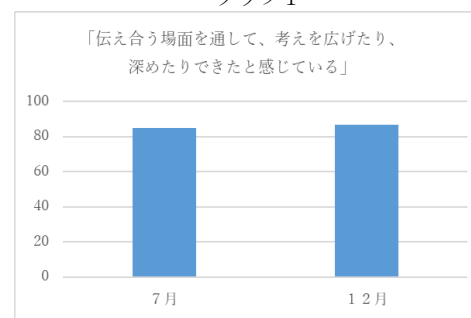
#### ②泉小学習スタイル「学び合う」の共通実践

学校評価アンケートにおいて教員用質問項目「児童が考えを広げたり、深めたりできるよう伝え合う場面を工夫している」について、肯定的意見が92.6%（7月）から100%（12月）に伸びた（グラフ1）。金沢型学習スタイル、そして泉小学習スタイルとして共通実践が進み、それに沿った授業改善ができてきていることの表れであると考えられる。



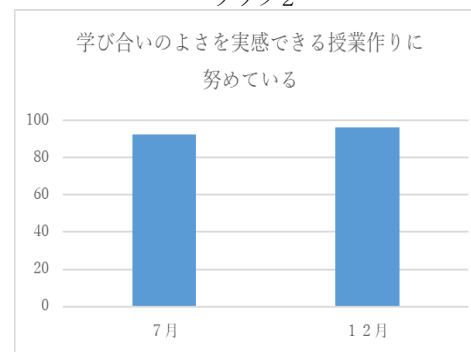
グラフ1

児童アンケート「伝え合う場面を通して、考えを広げたり、深めたりできたと感じている」についても、肯定的意見が85.0%（7月）から87.0%（12月）に伸びた（グラフ2）。昨年度から取り組んでいるペア・グループ活動が定着し、様々な形態の対話が生まれている。授業で児童が対話するために学び合いの形態を工夫し、ペア・グループ、全体での学び合いの場を設け、考えを出し合い、深めてきたことが成果となって表れたと考える。



グラフ2

教員アンケート「学び合いのよさを実感できる授業づくりに努めている」についても、肯定的意見が92.6%（7月）から96.2%（12月）に伸びた（グラフ3）。「学び合い」において児童が学びに対する充実感をもてたことは、特に重点2を中心に手立てや支援の工夫がなされるようになってきたためと考えられる。



グラフ3

## 3 成果と課題

- ・ 泉小学習スタイルとして共通実践が進んだ。特に「学び合う」段階において重点2を中心に実践を積むことができた。ペア・グループ活動が定着したことは、考えを出し合い、深め合うことにつながった。また、児童の思考を可視化・操作化したり、深めの発問等を行ったりするなどの指導の工夫がなされるようになってきた。これに伴い、児童の学びに対する充実感が増してきている。しかし、教師の評価に比べると児童による評価は低くなっている。教師が子供の様子を見取り、児童自身ができたことを実感できるようにする必要がある。
- ・ 学年主任を中核とした学年研究会で、教材開発や具体的指導方法を検討し共通実践することにより、組織的かつ実地的な研究体制が構築できた。これは、若手・中堅教員の指導力向上につながり、大きな成果と考えている。今後も「学び合い」の質を高めるために、効果的なペア・グループ活動のあり方や児童の思考を深める具体的な指導のあり方の検討を続けていく。そのために、学年を軸にした教材研究・共通実践を一層推進していきたい。

